

現場監督にやりがい

うちのエース



岩田地崎建設 (札幌市中央区)

技術部主任 飯田 百合亜さん(28)



①札幌市内の道路建設現場で、現場担当者として施工状況を確認する
飯田百合亜さん
②本社の書庫で資料に目を通す。専門書や論文など1万点を超す資料を備える

「現場に出してもらえないのなら、採用していただかなくて結構です」

2009年春採用の重役面接でこう言った。「うそのない私自身を見てもらいたい」との思いからだった。約1週間後、内定通知が届いた。

同期入社15人のうち女性は1人。本社土木部土木課に配属され、石狩川の札幌大橋橋脚建設現場に。社内では現場を担当する唯一の女性社員だ。

巨大な機械と見たこともない太い鉄筋。初めて聞く工具の呼び名。「すべてが新鮮な体験でした」。周りは男性ばかりだったが、戸惑いはなかった。厳寒

飯田百合亜さんの1日

6:00	起床
7:00	弁当作り、JRで出勤
8:00	出社
8:30	始業
9:00	書類作り、資料整理、打ち合わせ
12:00	昼食、昼休み
13:00	書類作り、資料整理、打ち合わせ
17:30	終業 (残業の日は19時くらいまで)
18:00	帰宅、夕食
20:00	資格取得のための勉強
24:00	就寝

人の役に立ちたい ■ 女性目線で魅力的業界に

の中、作業員から「寒いっしょ」とよく缶コーヒーをもらった。その温かい感謝。「働いている実感」があった。

ちょっと困ったのがトイレ。現場に女性用はあったが、冬は何枚も重ね着をしているので着脱が大変だった。

現場管理者は現場の全責任を負う。仕事は忙しすぎる。施工が図面通りか、工程通り進んでいるか、確認や目配りが欠かせない。予期せぬ設計変更

「モノをつくる仕事でした。神奈川県生まれで、父の転勤で道内に。中学生のころから将来の夢は現場監督になること。『モノをつくる仕事でした。神奈川県生まれで、父の転勤で道内に。中学生のころから将来の夢は現場監督になること。『モノをつくる仕事でした。神奈川県生まれで、父の転勤で道内に。中学生のころから将来の夢は現場監督になること。』」



飯田さんが働く姿を連続写真で見ることができます。スマートフォンなどにアプリ「道新AR」をインストールして、写真にかざしてください。

た。どうせなら何千、何万の人の役に立つモノがいいと、旭川工業高校土木科に進学。北海道工業大学(現・北海道科学大学)では土木エンジニアリングコースで学んだ。

「現場に出してもらえないこと」を条件に、女性採用に熱意のある数社を受けた。本州企業にも内定したが、親の意向も

「女性目線で、業界を変えられたい。業界が魅力的になれば女性や若者が入りやすくなる」(編集委員 宇梶義広)

岩田地崎建設

本社 ▶ 札幌市中央区北2条17の2

創業 ▶ 1922年(大正11年)

代表者 ▶ 岩田圭剛社長

事業内容 ▶ 建築・土木・舗装各工事ほか

資本金 ▶ 20億円

売上高 ▶ 570億円(2014年3月期)

従業員数 ▶ 659人(2014年4月現在)